

**みんなを支え、みんなを育て、  
みんなが育つ大玉村の教育**

福島県大玉村教育委員会

**はじめに**

大玉村は、詩人高村光太郎の「智恵子抄」で有名な安達太良山の裾野に広がる、県都福島市、商都郡山市に近接した住みよい田園地域です。また、先の平成の大合併で自立を選んだ人口8600余人の村です。

村内には、国道4号線が通り、東北自動車道やJR等の利便性もよく、微増ではありますがここ十数年間人口も増え続けております。

本村には、中学校1校と小学校2校、幼稚園2園があり、それらの学校を支援する大玉村学校支援地域本部事業を実施しています。

**スタートに向けて**

教育委員会では、「豊かな自然環境と地域社会における連帯感の中で、家庭・学校・地域社会の結びつきを基盤として『人・自然・地域を大切にすることを育む村づくり』を推進し、思いやりに満ちた優しい心を育むとともに、生涯にわたって心身ともに健康でたくましい村民の育成を期する」を教育目

標に掲げています。そこで、村内の学校・幼稚園教育を支援するボランティア活動を更に発展させた組織づくりを推進することにより、教員の子どもと向き合う時間の増加、地域住民の生涯学習成果の活用機会の拡充および地域全体の教育力の向上を図ることを目的として、3校2園を包括する「学校支援地域本部事業」を平成21年5月にスタートさせました。

**支援事例の紹介**

では、これまでの支援の様子をいくつかご紹介いたします。

①「学習の支援」では家庭科のミシンの授業の補助です。

ミシンがけの前のしつけ縫いがうまくできない児童やミシンがけに進める



ミシンの補助



補修された指揮台

児童など、児童の学習の進み具合に応じた授業となりました。その際、ミシンを調整したり、そのつど使い方を質問したりしてくる児童の対応などにボランティアの方々が大活躍しました。

②「環境整備支援」では指揮台の補修です。

老朽化し、危険を伴う恐れのある校庭の指揮台を補修しました。天板にコップネを貼り、塗装をしました。運動会には立派な指揮台を使うことができました。

③「学校行事支援」では児童の見守りです。

P.T.A総会や学年懇談会に出席する保護者を学校で待つ児童の預かりをしました。多くの保護者の皆さんが安心して会議に出席することができました。



児童の見守り



下校時の付添い

④「安全パトロール支援」では春先の1年生の下校時の付き添いです。

下校する方向がいくつもあつたり、運動会の練習などで先生方だけでは対応できない日があることから、ゴールデンウィークの前まで、1年生の保護者の迎えの場所まで付き添いました。

⑤「その他の支援」で、重い机やロッカーなど、児童の手に負えない重いものを運ぶ支援を行いました。

他にも「読み聞かせ支援」や「図書台帳の整理」、「算数の丸付け」などの支援も行いました。



教室の移動



図書台帳の整理



読み聞かせ



算数の丸付け

## コーディネーターの活躍

これらの支援活動も、コーディネーターの活躍が大であることは言うまでもありません。3校2園に定期的に出向き、各学校の行事予定表を確認しながら、「こんな支援はいかがですか。」などと具体的に支援要請につながるよう積極的にアプローチをし、支援の実現につなげました。

しかしながら、学校からの要請に対しボランティアがすぐに見つからないことが時々あります。内容とその時間帯によっては受け手がなかなか見つからず、家に帰ってまで連絡をとったりするなどの苦労をしていたようです。

コーディネーターの大切な役割の一つとして、ボランティアとのコミュニケーションがあります。支援前の打合せや支援の場面に outgoing、ねぎらいの声をかけるなど、ボランティアの方々のコミュニケーションを大切にしてくださいました。

そのようなことから、登録していない内容での支援や学校からの急な要請にも快く応じてもらえるコーディネーターとボランティアの信頼関係を築き、充実した学校支援をすすめることができました。

## これから

今後の方向性ですが、本村では、村内の3校2園を本年4月から『コミュニティ・スクール』に指定し、幼・小・中の接続を強化しながら、最終的には施設の統合を伴わない幼・小・中一貫教育を目指しています。そこで、『学校支援地域本部』をコミュニティ・スクールの『学校運営協議会』と連携させ「学校支援」や「地域教育」を担う組織として発展させていくよう検討を進めています。

すでに、学校支援地域本部は、意欲的に活動していただいておりますので、『コミュニティ・スクール』のしくみや意義をご理解いただきながら、これまでの組織や活動内容を大きく変えることなく、その力を活かしていきたいと考えています。そして、学校や子どもたちのために活動することをおし、子どもたちからも学び、同じボランティア仲間からも学び、人と人とのネットワークを広げることのできる場になって、大玉の子どもたちを『みんなが育つ、みんな育てる』と同時に『みんなが育つ』ための核となる組織を目標としています。

## 成果と課題

最後に、成果と課題ですが、「子どもの変化」として、地域とのかかわりを意識するようになったこと、多様な体験・経験が増加したことが成果として挙げられます。子どもたちの多くが学校にいても常に地域の皆さんに見守られ、成長を支えてもらっているというのを理解してきているのだと思います。また、「学校の変化」として、地域の方々も教職員も、学校と地域の連携が深まったこと、地域の中の学校としての意識が高まったことが挙げられます。

本事業の充実のためには、事業のPR、ボランティアの確保、地域や保護者の理解と協力が不可欠です。また、学校の先生方の理解も徐々に広がっています。コーディネーターやボランティアとの連絡・調整をする時間の確保が課題として挙げられます。

今後とも学校・幼稚園からより多くの要請があり、登録していただいているボランティアの皆さんの「達成感」を感じていただけるよう、コーディネーターと共に歩んでいきたいと思っています。

(生涯学習課社会教育係長 作田純一)